

# 上尾 歴史散歩

238 上尾の古い地名をこう

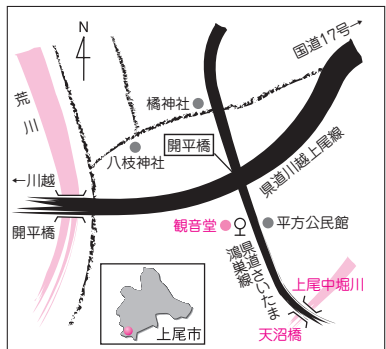
## 「寺子屋師匠の墓所に詣でる」 ～平方～

「ぐるっとくん」を「平方公民館前」で下車すると、道路西側に目指す「観音堂」がある。この観音堂は江戸時代には天台宗正覚寺であったが、明治初年に廃寺になったものである。現在寺子屋の師匠の墓所が数多くある所として知られ、「正覚寺寺子屋遺跡」として市の文化財にも指定されている。堂内には六基の筆子塔があるが、比較的古い正徳三(一七一三)年建立のものもあり、上尾市域では大変珍しい。この筆子塔は「純智」のものであるが、寺子屋の教え子である筆子たちが建立したものである。この筆子塔(塚)には「施主平方村、手習子五十三人」とあり、古い呼称である「手習子」の文字が刻まれているのは、県内でも数少ない例である。六基の筆子塔のうち、一番新しいものは天保十二(一八四二)年没の円純のものであるが、これらの例から見ると正覚寺では長い期間にわたり寺子屋が開かれており、上尾市域では大変珍しい(『上尾の文化財』)。



左/純智の筆子塔 右/森朴斎碑

弘化年中(一八四四～四八)に名主の永島氏宅に寄留したといわれる。永島氏は朴斎の学識の深さを知り、地域の若者に教えてもらうため屋敷内に学舎を建て、以後十数年にわたり三百人余りの若者たちを教えたという。上尾市域では珍しく師匠が元武士で、しかも寺子屋ではなく大人の若者を対象にした私塾であったことが注目される。朴斎は万延元(一八六〇)年に五十四歳で没しているが、生活や身なりに頓着せず、地域の人々から大変親しまれたといわれる。朴斎碑と墓所は共に市指定文化財になっている(前掲書)。



観音堂東側の道は、主要地方道さいたま鴻巣線であるが、この道路を南下し三百メートルも歩くと上尾中堀川に架かる「天沼橋」となる。上尾中堀川は台地中に溺谷を形成しており、観音堂付近から見ると標高に五メートルほど較差があり、台地の中の谷津の景観を呈している。上尾市域は平坦な地形が大部分で、その点珍しい景観ということになる。上尾中堀川沿いは、かつては深田が展開していたが、現在は運動場ができた住宅も進出したりして変化している。それでも上尾中堀川に沿って一キロメートルも歩いてみると、古くからの景観に接することができる。この溺谷の景観は、江戸時代の平方の俳人たちが上尾中堀川沿いを逍遙したという、この地の景勝地であったともみられる(『上尾市史第三巻』、『上尾市地形図』)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

**わくわくクイズ**

○に入る文字や数字を当ててください。

民生委員・児童委員の改選が行われ、市では○○○人が委嘱されました。

(ヒントは6ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、1月21日(金)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1  
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は2月号のこのコーナーで。前号の答えは「リサイクル」でした。ご応募ありがとうございました(応募者60人)。

**市の人口・世帯**  
(平成22年12月1日現在)

**22万7127人**  
男/11万3587人  
女/11万3540人  
※前月より59人増。

**9万2252世帯**

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。  
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。